

## <高学年授業実践>

### ①授業公開の様子

6年生 単元「比」

授業者：酒井 夕委 教諭（恵庭市立恵庭小学校）

本時の目標：部分同士の比がわかっている時に、全体の数量から部分の数量を求める仕方を考えることができる。

本時の様子

過程	学習の流れ (◎発問 ○活動 ・子どもの反応)	留意点
つかむ	<p>○くじを引いて、当たりが3つ、はずれが7つあることを知る。</p> <p>○問題を提示する。</p> <p><b>当たりとはずれくじの数の比が3：7になるようにくじをつくり</b> <b>ます。くじの数を全部で60個にするとき、当たりくじの数は</b> <b>何個にすればよいでしょうか。</b></p>	<p>・実際にくじを用意し、比が3：7であることを確認させる。</p> <p>・問題の値を120から60にスモールステップ化することで、支援が必要な児童でも自力解決ができるようにする。</p>
みとおす	<p><b>当たりくじの数の求め方を考えよう。</b></p> <p>◎どのようにして考えたら答えを求められるでしょうか。</p> <p>・1あたり量 ・倍 ・二重数直線 ・比の値 ・全体から引く</p>	
かんがえる	<p>◎自分の考えをノートに書きましょう。</p> <p>○自力解決ができれば、ノートを持って友だちと考えを交流し合う。</p> <p>○自力解決ができない・・・先生からのアドバイスを聞く。</p>	<p><b>A 自分の考えを表現する</b> ノートに解決方法を考えて書く。</p>
つたえ合う	<p>◎自分の考えを発表しましょう。</p> <p>○自分の考えを発表する。</p> <p>・倍の考え方 ・表 ・図 ・比の考え方</p> <p>○多様な考え方で答えが求められることを理解する。</p> <p>○全体の数量から部分の数量を求める場合にも、比の性質を用いた未知数xに当てはめて考えられることを理解する。</p>	<p><b>C 他者と交流する</b> ノートに書いた自分の考えを伝え合う。</p>
まとめる	<p><b>全体の数に対する当たりくじの数の割合で求めることができる。</b></p> <p>○練習問題に取り組む。</p> <p>①本時の問題の「60個」が「120個」になった場合の問題。</p> <p>②くじ問題で、当たりとはずれが5：3、全部の数が72個の場合の問題</p>	<p>・発表する児童には、ミニ黒板を用いて考え方を書かせ、説明させる。</p>

### ②授業分科会での協議内容

- ・スモールステップの工夫：児童の実態を踏まえ、問題文の120という数値を60に変更した。
- ・見通しのもとせ方：いろいろな方法で求めることができることを全体で確認する。
- ・課題や問題について：見通しのもてる課題であったか。まとめとの整合性はあったか。文言は適切だったか。

### ③成果と課題

- ・自力解決できた児童を歩かせ、自力解決できない児童は担任のもとにさせていたが、困っている児童が多い場合は全体に助言することが時には必要ではないか。また、子どもたち同士で話し合わせた方が、新しい発見ができて良かったのではないか。
- ・スモールステップは、問題を簡単にするというのではなく、単元内での学習内容のつながりを考慮すると、教科書の2つの考え方の例につながる工夫ということで捉えることも必要ではないか。
- ・前時と本時は何が違うのかという所を考えさせれば、「全体」という所に着目できたのではないか。本時は「全体」という所が重要である。課題に「全体」という言葉を入れることで、児童に「全体」を意識させることができたのではないか。見通しの段階で3：7（部分と部分）という考え方は使えないということを確認すべきだった。
- ・課題は、様々な問題に対応できるためにも、普遍的なものの方が良い。（例「全体量と部分量の比がわかっているときの部分量を求めよう」など）
- ・教科書の2つの考え方の例についての児童同士の話し合いが充実しており、求め方の理解につながっていた。

（文責 野田 卓矢）